

私学の責任

学校長 太田 清史

京都は、日本で初めて私立学校が誕生した地として知られています。真言宗の開祖空海が、庶民教育や各種学芸の総合的教育を目的に、貴族たちの支援によって設立した「綜芸種智院」がそれです。

ものの本には「全学生・教員への給食制を完備した身分貧富に関わりなく学ぶことのできる教育施設、俗人も僧侶も儒教・仏教・道教などあらゆる思想・学芸を総合的に学ぶことのできる教育施設の設立を提唱し、その恒久的な運営を実現するため、天皇、大臣諸侯、仏教諸宗の高僧らをはじめ、広く世間に支持・協力を呼びかけたのである」と解説されています。

ここからわかる私学の役割は、①学びたいという志のある者は基本的に受け入れる、ということと、②思想・学芸の教授を中心とする、ということです。

翻って、日本近代私学の草分的存在である本校の現状を考察してみると、①については、学則定員の範囲でそれを積極的に実践しており、②については浄土真宗という仏教思想に基づく人間教育を実践しています。これが大谷という私学の責任であるからです。言換えれば、大谷は日本私学中の私学であるということになります。

現在校内では、来年度に迎える創立 140 周年を前に、「式典委員会」「記念誌編纂委員会」そして式典後に記念事業として着工予定の新校舎等の「建築委員会」を設置して、150 周年に向けての具体的なビジョン構築の最終段階に入っています。

そのビジョンの中心にある基本理念は、終始一貫して「樹心一よき世の人となる一」という建学の精神にほかなりません。

読者の皆様には、引き続き大谷に対しまして心よりのご支援をお願い申し上げますとともに、140 周年記念事業に対しまして物心共なるご協賛のほど、衷心よりご依頼いたします。